

審査員長の講評（注：審査会場における講評コメントをまとめたものです。）

最優秀賞は、NNSH設計共同体に決定いたしました。次席の優秀賞は、吉武・環業務共同企業体です。

審査員を代表して講評をコメントさせていただきます。野沢さんが代表のNNSH設計共同体チーム案は、徹底的な木造建築の提案です。それは木を使うということだけではなく、木の持っている性質を含んで学校の環境を木でやるのだ、その情熱が審査員全員にひしひしと伝わってまいりました。さらに既存校舎の減築という考え方の提案です。これからの環境を考えるにあたって、我々が、21世紀の建築全体が避けて通れない問題があります。そういうことに、正面から取り組んでおられるということをお高く評価いたしました。野沢さんが言うとおられたように、震災後、特に日本において、自然エネルギーをどれだけ活用して、そのほかのエネルギーに頼らない環境をつくっていきけるのかは、とても大きなテーマだと思います。そのことに対して、真摯な回答をしておられたと感じました。他の視点では、今回の小中一貫校において、既存の校舎があるところに新しいものを入れるという難しい設計条件の中で、双方の調和や小学校の低学年への優しい配慮がなされています。また、小中一貫校、小学校、中学校のという今までの区分でなく、小学校1年生2年生、中学年、高学年、中学生へと移行していく、それはある明確な境があるのではなくて、段階的に連続しているのだという考えを建築計画に入れるという点について、教育長も大変評価をしておられたように思います。どのような学校が誕生するのか非常に楽しみであります。町民の方々から運動場に300mのトラックを取りたいという強いご要望があるように伺っています。現在の計画案では無理なようですが、これは質問のとき、野沢さんが「努力いたします」と答えられておりましたので、何とかそこに向けて更に努力していただきたいというのが審査員一同の要望であります。

次席の優秀賞、吉武・環業務共同企業体の案は、すごく大きな木造の屋根の下に、自由に、既成の学校の考えにとらわれない提案をされており、気持ちのいい学校になると感じました。色々な場所に様々な空間が設けられているということ、地形をつくるというふうに表示されておられましたが、スロープで上り下りするような空間構成は、小学生にとって楽しい学校になるだろうと評価しております。全体を包む大構造体、全面的な開口やガラス壁面あたりに多少心配が残るというようなことで、若干の遅れをとったということでもあります。

その他3つの案の方々もそれぞれ優れた提案を持つプレゼンテーションされました。例えば、最初に発表してくださったバオプラーン熊本のチーム、このチームの案は、非常に整然としたバランスの良い計画であります。特別な問題もなく、ある意味で模範解答に近いような提案だったと思います。アートポリスのプロジェクトとしての新奇性の観点から、少しもの足りないのではないかという意見も聞かれました。

次に中川建築設計事務所さんの案は、南北方向に一直線に小学校の教室を並べるという非常に特徴的な計画です。シンプルで透明感がある案で、しかも300mのトラックもとれるといったようなメリットがあります。しかしながら、果たして提案の教室が本当に低学年、中学年の小さな子供たちに対して、やさしい校舎になり得るのだろうか、そのところの疑問がありました。300mトラックはとれますが、どうしても直線が長くなり、幅が限定されます。そのような問題も指摘されました。

中村さん、木下さん、雨宮さん、跡部さんのチーム案は、これもプラン自体はとても良くできていたと思います。私個人としては、住民の方が通り抜けていけるといったような通路、それから、みかわの広場といわれているような、子供さんたちだけでなく住民の人たちがいつでも集まれるような考え方に感動を覚えました。構造を含めて、物理的なつくられ方に対して心配があるとの意見がありました。

以上、審査内容の概略を説明いたしましたが、5案の差は僅差だと考えております。最終的に審査委員全員の意見集約ができましたので、発表いたしましたNNSH設計共同体チーム案を最優秀に決定させていただきました。

本日は、町民の方々にも沢山おいでいただき、長時間の審査を見守っていただきました。勿論、発表してくださった方々の大変なエネルギー、特に一次案からの今日に至る間の素晴らしい進展に対して厚く御礼を申し上げます。

最後になりましたが、この場をお借りしましてくまもとアートポリス・プロジェクトにご理解をいただきました和水町の皆さま、全国からプロポーザルに応募くださった方々、審査会場に足を運んでくださった方々に深く感謝いたします。